

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173501131		
法人名	医療法人社団 上田病院		
事業所名	グループホーム ゆうゆう(月)		
所在地	室蘭市日の出町2丁目2番27号		
自己評価作成日	平成29年9月1日	評価結果市町村受理日	平成29年10月18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2017_02_2_kani=true&JigyosyoCd=0173501131-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

3ユニットあるグループホームです。各ユニット2階建て吹き抜けがあり明るい雰囲気です。3ユニット全て開放されているので他ユニットの入居者やスタッフが自由に行き来でき交流が活発です。リビングから上がる階段は筋力の維持に役立っています。玄関前にはベンチと庭があり花を觀賞でき気軽に外気浴を楽しむことができます。四季の行事では春は近隣の公園へお花見へ出かけたり、少し足を伸ばし登別市の亀田公園へ行き園内を散策しています。夏には室蘭水族館でペンギンのパレードを見学、秋には向かいに建つ同事業所のグループホームたんとんととで恒例のバーベキューを行い交流を深めています。爽やかな秋には壮瞥町まで出かけよう狩りを楽しんでいます。冬は室内での行事が中心になりますクリスマス会や新年の書初め、福笑等お楽しみ会を行っています。町会との関わりではバーベキューに参加していただいたりお祭り等の行事に参加、避難訓練時には協力を得ることができています。医療法人が母体であり身体の変化がある時にも速やかに医師と連絡が取れ訪問看護で住み慣れた環境の中で安心して治療を受けることもあります。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成29年9月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営母体は、代々地域密着型医療機関として地域資源の役割を担っている。代表者が、地域貢献の一環として「グループホームゆうゆう」を開設して13年が経過している。駅やバス停から徒歩圏内にあり、家族や知人が訪れやすい場所に立地している。系列の事業所が隣接しており、大きな行事は合同で行うなど協力関係が構築されている。開設当初から地域の方々とは交流があり、理解と支援を得ている。また、家族や友人知人の来訪も多く、利用者が地域の一員として暮らすことができる大きな要因となっている。地域の祭りでは、事業所前庭が子供神輿の休憩所となっており、利用者はおやつを配るなど楽しい時間帯となっている。健康管理の充実がこの事業所の特色であり、要望があれば終のすみ家として暮らし続けられる環境になっている。職員は、利用者を敬う気持ちを念頭に笑顔や柔らかな言葉を心掛けるなど、寄り添いながら生活を共にしている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ケア理念は法人で作成し、玄関に貼りだしている。ユニットでも目標を作り、目標に合ったユニット作りをしている	系列事業所共通の運営・ケア理念を共有し、さらにユニット毎に理念を具体化した目標を策定している。入社時に理念の意義を学び、目標も含め実践に努めている。会議等で、理念や目標の振り返りを行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し町会行事へ参加している。ホームの行事にも町会の方の参加がある。避難訓練には町会の方の協力が得られている。	利用者と職員で町内会の清掃活動に参加したり、神社祭では事業所前庭が子供神輿の休憩所になっており、利用者はおやつを配るなど交流がある。ボランティアの芸能披露、実習生との関わりもあり、生活の活性化に繋げている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	避難訓練や行事参加の機会を通じ、入居者さんと実際関わってもらう事で、認知症を理解してもらっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を二ヶ月に一度実地し、家族や地域の方、市役所、消防、包括支援センターの方等出席し、意見交換を行っている。会議での内容は家族に送付している(家族参加も増えている)	会議は2カ月毎に開催され、課題であった家族の参加は職員の努力により改善されている。現況報告に対してメンバーから出された意見や提案を運営やケアの充実に生かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	各種の会議や研修会などに参加し、分からない事がある時は質問や相談をしている	運営推進会議は基より行政主催の行事や各種報告書等で管理者や職員は担当者と行き来する機会があり、事業所の現状を共有している。課題が生じた場合には、解決に向けた意見や提案を得ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設けている。委員会では現状報告や今後の対応等話し合っている。身体拘束に関する研修会などに参加している。現在は2名家族と書面を交わし拘束している。	身体拘束廃止や虐待防止に向けた取り組みは、新人研修や外部研修・内部研修等で正しい理解に繋げている。系列事業所合同の管理者による身体拘束廃止委員会でも、内容を掘り下げ職員に伝えている。玄関は、日中開錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての話し合いや勉強会などで学び防止に努めている。職員同志で言葉の乱れには普段から注意し合っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見制度を必要とされる方がいました。現在は居ませんが、今後も増えてくる事が予想され、学ぶ機会があれば学んでいく必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には全項目を読み上げ説明し、理解・納得が得られるように努めている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。苦情受付・苦情解決責任者・第三者委員会を設置し、意見や苦情があった場合は小さなことでも速やかに職員に周知し、家族の希望に沿うようしている。	家族には毎月の便りや、月次報告書を送付して利用者の様子を伝え、面会時等で意見や要望を把握している。利用者からは、関わりの中で傾聴している。ケアに関することが多く、職員は迅速に具体策を協議している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の申し送りや毎月のユニット会議やリーダー会議・勉強会研修会などで意見交換し、都度検討し反映させている	役職者は日頃から就業環境の整備に努めており、個別面談や業務上で職員の意見や提案を傾聴し、運営に反映している。職員は各種研修会での学びや、業務を分担することでスキルアップに繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各種の資格取得のための研修への参加。担当業務の割り当て・個別の面談の実施。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会・研修会・講習会への参加。毎年事例発表会の実施。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や広域連絡会で情報の交換を行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に本人や家族より書面、面談等で情報を収集、本人の言葉・表情などから思いを探る努力をしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と連絡を密にとり本人のこれまでの生活状況や希望等について都度確認している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の意向を十分に聞き、状況に応じて他のサービスを含めた情報を提供している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	安心して生活ができる事で残存機能を維持し、役割が持て、職員と一緒に家事等を行い、自分らしさが自然に出せるように支援している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは細目に情報を共有し、希望等を聞いている。面会時にはゆっくりと過ごせる様に配慮している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出・外泊などは自由に行っている。行きつけのお店など本人や家族の意向を受け対応している。	利用者の生活歴の把握に努め、家族の協力も得ながら入居前の居宅訪問や通夜、法要への参列同行の支援に努めている。馴染みの方々の面会や住職のお参りなどの訪問を歓迎し、関係性を大事にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士の交流は自主性を重んじ見守っている。時には仲介に入ったり見守りしながら良い関係が継続できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院など退去する場合、受け入れ先と十分に連携し情報を提供し、出来るだけ今までと同じように生活ができるようにしている。相談には応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望を確認している。意思の疎通が困難な場合は本人の様子を観察しながら家族から情報収集している	蓄積された情報を参考に、利用者との寄り添いの中から、根底にある思いや要望の汲み取りに努めている。食欲低下の利用者には、食事形態を変えるなど、満足度が高められる支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の希望を重視している。入居前より、本人・家族より生活歴などの情報を収集し書面にし職員に周知している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりが自分らしく過ごせるようプランに添って記録し、心身の状態に応じて対応している		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族からの要望を聞き、職員がサービス担当者会議やユニット会議、申し送り時に話し合い、情報を共有し必要な支援内容について具体的に作成している	日頃から利用者や家族の要望を収集し、医療関係者の所見や介護記録を参考に、利用者にとって適切なケアプランになるよう職員間で検討して作成している。ケアプランの実践は、介護記録で確認できる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間日々の暮らしの様子を細かく観察し、ケアプランに添って記録出来る様努めている。特別なことは特記事項へ記録している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族からの要望があった場合や、本人の状態に大きな変化があった時には、ケアプランの変更等検討する		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議には町会長や町会役員などに参加してもらっている。地域の子供達や新たなボランティアの受入れ、消防・町会と連携した防災訓練の実地を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医から情報収集を行い、本人家族の希望があれば継続して医療を受けられるよう支援している	家族の協力も得てかかりつけ医への受診支援を行っている。運営母体による月1回の院長往診と、月2回看護師同席の医師による健康相談、さらに看護師でもあるホーム長へ随時相談できる態勢にある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護師が月2回健康相談時に同席しています。日々の中で変化のある時には速やかに医師報告し、必要に応じ訪問看護をうける事があります。月1回の院長往診もあります。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には介護添書を記入し、同様のケアが受けられるよう努めている。 退院時にも看護添書を受け取り、退院後の生活がスムーズに行えるよう努めている			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の覚書に添って本人の望む生活で対応している。 主治医と連携し、治療方針など説明、要望に添えるよう配慮している	入居時に重度化や終末期に於ける指針を説明し、状態悪化時に再度意思確認を行っている。事業所として看取りの経験は無いが、看護師でもあるホーム長から、急変時に備えた知識や技術を学んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置のマニュアルを作成している。 緊急時のシュミレーションを毎月初めに1週間実施している			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年2回日中・夜間を想定し防災訓練を行っている。入居者・町会の方も参加で行っている。 朝の申し送り時にもシュミレーションを行う様にしている	年2回消防署の指導や地域の方の協力を得て、日中・夜間想定避難訓練を行っている。これから行う2回目の訓練は、津波を想定して車を使用しての避難訓練を計画している。救命救急の受講は、順次参加している。	毎月緊急時のシュミレーションを行っているが、机上のプランにとどまらず実践的訓練への移行と、家族に避難場所の周知、加えて夜間や冬期に於ける防寒対策など、さらなる防災への強化を期待する。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いや対応には十分注意しプライバシー保護を徹底している	利用者への対応は、新人研修や外部・内部研修等で学び、敬う気持ちを念頭に、笑顔や柔らかい言葉かけなど実践に繋げている。個人関係書類も適切に管理している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の表情や言動を観察し、手を出し過ぎずゆったりとした環境の中で、自己決定の場を作りながら、本人の思いや希望を表現できるよう努めている			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な流れの中で、個々のペースに合わせて生活している			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類などは自分で選んでもらっている。 散髪は本人の意思にまかせている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好みのエプロンをしてもらっている。好き嫌いがある方には代替えている。食事は職員も一緒に楽しく会話しながら食べている。	食事作りは利用者と一緒にいき、会話をしながら食事をとっている。献立はあるが、誕生日は希望の献立にするなど柔軟に対応している。旬の食材で季節感に繋げるなど、楽しい食事時間になるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は毎日チェックし把握している。きざみ・ミキサー・お粥・トロミ剤の使用など個々の状態に合わせて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きを徹底している。自分ではできない方には介助しうがいなどが困難な方は口腔清拭施行している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄のパターンを把握し、トイレ誘導を行い、出来るだけトイレで排泄できるよう支援している。	全員の排泄チェック表を参考に、一人ひとりに合わせたトイレでの排泄支援を行っている。利用者の状態に応じて衛生用品を使用したり、夜間のみポータブルトイレを利用して失敗を減らしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排便状態を把握し、できるだけ下剤に頼らず、出来るだけ食べ物での排便を促す食材の提供や、お腹のマッサージや運動等で、便秘予防に努めている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	最低週に2回の入浴と希望や拒否がある時には都度対応している	利用者の状態に合わせて、週2回以上の入浴支援に努めている。入浴剤入りの湯船にゆったり浸かれるように複数介助を行ったり、利用者の話しや歌に耳を傾けるなど、リラックスできる環境作りを行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に居室やリビングで休憩出来るようにしている。個々のペースで就寝準備・入床支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	それぞれの服用している薬の一覧を作成している。誤薬が無いよう服薬前には名前・日付を読み上げ、確認し、服薬してもらっている。特変がある場合は医師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節毎の行事やドライブ・同法人のグループホームとの合同レク、家事等を職員と一緒にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や日光浴には体調やそれぞれの希望で外出している。 買い物や行は職員が同行している。家族の協力で外出・外食などしている。	利用者の要望で散歩や買い物などに同行し、外気に触れている。花見やぶどう狩り、水族館、公園等の外出行事を企画し、気分転換を図っている。さらに、家族との外出や地域の協力を得て神社祭を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の思いを大切に紛失時のことも考慮し、家族とも相談し決めている。 買い物を希望する時は同行している。現在お金所持している方は1名(小額)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも対応している。自分ではかけられない場合は介助し話ができるようにしている。個人に届いた郵便物は渡している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは吹き抜けになっていて、窓からの光や風が心地よく感じられます。トイレ、居室には名前を付け、室温、湿度にも気を付けています。季節毎にみんなで作った壁の飾りを変えています。	ユニットはリビング階段吹き抜けになっており、開放感があり、採光、温湿度など生活環境に配慮がある。壁面の利用者と一緒に作ったコスモスの貼り絵が、趣きある雰囲気を出している。又、共用空間には利用者による筆字や、職員による利用者の似顔絵もあり、温かみを感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファに座りおしゃべりしたり、気の合う入居者さん同士歌や体操お喋りを楽しんでいます。椅子を離れた所へ置き、一人の空間も作っています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が今まで使用していた馴染みの家具や装飾品を持ち込んでもらうようにしている。安心して居心地良く過ごしてもらうよう努めている。本人の希望により居室を移動した方もいる。	居室には棚や整理ダンスが備えられ、整理整頓に活かしている。家族の協力の下、慣れ親しんだ調度品や仏壇、飾り物が置かれ、利用者にとって落ち着ける環境になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	2階建てで階段を昇降することで体力維持に努めている。手すりや取手の位置を低くし、トイレの戸にはトイレの印を、浴室にはお風呂のマークで分かり易くしている。手すりの位置には配慮している。		